

月例研修会・レポ

法隆寺涅槃会と藤ノ木古墳見学

高城 光一

昼間の気温が2~3℃しかなく時々小雪が舞う極寒の史跡めぐりだった。今回のコースはJR法隆寺駅を出発し門前町を通って藤の木古墳、藤の木古墳からは西里の集落を抜けて法隆寺へという平凡なものであったが、内容は実に盛り沢山。充実した一日であった。本手記では藤の木古墳と法隆寺涅槃会について簡単にふれておきたい。



藤の木古墳は直径50m、笹に覆われた円墳である。到着してすぐに、羨道から石室内を覗くと少し赤みがかかった石棺が見える。これが何と考古学上第一級の史跡とのこと。今回は元檀香山博物館の説明ボランティアガイドの坂東さん(会員)からこの石棺のことや被葬者のこと



を、出土品の写真も交えて説明していただき、中身の濃い見学会になった。

筆者が特に印象に残ったことは、この古墳は地元西里の住民が被葬者を供養し大切に守ってきたため珍しく盗掘を免れたこと。その結果出土品から築造時期が6世紀後半と実証されている。



この日2月15日は釈迦が入滅した日にあたり、私たちはここ法隆寺の大講堂での涅槃会に参加した。涅槃図が掲げられその前で約1時間



の読経が続く。筆者にとっては寒いお堂の中でひたすら雑念の1時間であった。式の最後には私たちも焼香し散華をもらってお堂を退出した。ふと前方を見る



と今読経をしていた僧侶が列をなして帰る



姿、絵になる光景であった。参加者26名、総歩数1万3千歩。寒い中みなさんお疲れさまでした。

